

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-193300

(43)Date of publication of application : 10.07.2002

(51)Int.Cl.

B65D 47/08

(21)Application number : 2000-390187

(71)Applicant : HOGI MEDICAL:KK

(22)Date of filing : 22.12.2000

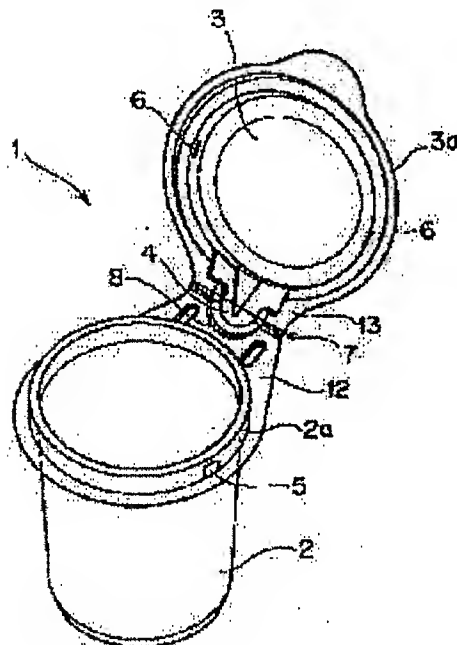
(72)Inventor : EBIHARA MASAHIRO

KOIZUMI AKIRA

TANIGUCHI KUMIKO

SAKAMOTO MASAHIRO

(54) CONTAINER CONSTITUTED SO AS TO OPERATE FOR OPENING/CLOSING AT REAR END OF COVER BODY



(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a synthetic resin container which not only maintains the aspect of hygiene by saving labor for replenishment of medical auxiliary products such as gauze and absorbent cotton but also enables an operation for opening a cover to be performed hygienically and easily with one hand.

SOLUTION: A cover body 3 is continuously installed integrally so as to be made swingable via a bent hinge part 7 at an edge 2a of an opening at an upper end of a container body 2. An eaves-shaped operating piece 4 is provided continuously at a rear end of the cover body 3 in such a manner as to protrude outward. Locking mechanism 5 and 6 for keeping the opening of the container body 2 closed with the cover body 3 are provided while avoiding front parts of the container body 2 and the cover

body 3, so as to form the container 1. The operating piece 4 is pressed from above to enable the cover body 3 to be easily opened without creating an unhygienic environment in which a person's hand passes above the container 1 when the cover body 3 is open.

対応なし、英抄

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-193300

(P2002-193300A)

(43) 公開日 平成14年7月10日 (2002.7.10)

(51) Int.Cl.⁷

B 6 5 D 47/08

識別記号

F I

B 6 5 D 47/08

データベース(参考)

F 3 E 0 8 4

審査請求 有 請求項の数 5 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2000-390187(P2000-390187)

(22) 出願日 平成12年12月22日 (2000. 12. 22)

(71) 出願人 000137052

株式会社ホギメディカル

東京都文京区湯島1丁目12番4号

(72) 発明者 海老原 正宏

東京都文京区湯島1丁目12番4号 株式会

社ホギメディカル内

(72) 発明者 小泉 亮

東京都文京区湯島1丁目12番4号 株式会

社ホギメディカル内

(74) 代理人 100087550

弁理士 梅村 莞爾

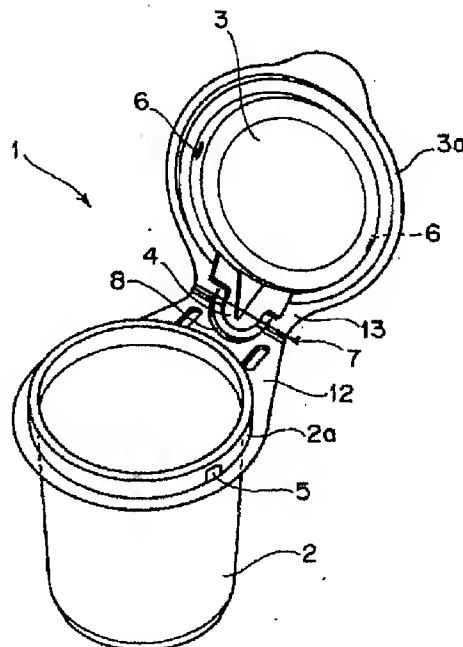
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 蓋体の後端で開閉操作をしてなる容器

(57) 【要約】

【課題】 ガーゼや脱脂綿といった医療補助品の補充の手間を省くようにして衛生面の保持をなすことは勿論のこと、開蓋操作をより衛生的に、かつ、片手で容易に成し得るようにした合成樹脂製の容器を提供する。

【解決手段】 容器本体(2)の上端開口縁部(2a)に、揺動自在となるように折り曲げヒンジ部(7)を介して蓋体(3)を一体的に連設する。 また、蓋体(2)の後端部に、外方へ突出するように底状操作片(4)を連設する。 さらに、容器本体(2)及び蓋体(3)における前面部を避けて、該蓋体(3)が該容器本体(2)の開口部を閉塞するように維持する係止機構(5, 6)を設けることにより容器(1)とする。 そして、該底状操作片(4)を上方より押圧することで、手が開蓋された容器の上方部を通過するという不衛生な環境を作り出すことなく、容易に開蓋することが出来る。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 容器本体と、該容器本体の上端開口縁部に揺動自在となる折り曲げヒンジ部を介して連設された蓋体と、該蓋体の後端部から外方に突出するように連設された底状操作片とからなり、容器本体及び蓋体における前面部を避けて該蓋体が該容器本体の開口部を閉塞するように維持する係止機構を設けてなることを特徴とする容器。

【請求項2】 前記折り曲げヒンジ部における下面側連設縁部に、指先が挿入され上面側連設縁部の押し上げが可能となる切欠部が形成されてなることを特徴とする請求項1に記載の容器。

【請求項3】 前記折り曲げヒンジ部における各端部は、蓋体の過度の開蓋を抑制する目止めが施されてなることを特徴とする請求項1又は2に記載の容器。

【請求項4】 容器本体と蓋体と底状操作片は、合成樹脂により一体成形されてなることを特徴とする請求項1乃至3の何れかに記載の容器。

【請求項5】 成形は、合成樹脂シートを用いた真空成形により行なわれることを特徴とする請求項1乃至4の何れかに記載の容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本願発明は、蓋体の後端で開閉操作をしてなる容器に係り、詳しくは、衛生面を重要視する医療分野において、医療補助品等が収容された容器本体の蓋部、特に前面部や上面部にあまり手を触れることなく開蓋可能としてなる容器に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 容器は基本的に物品を収容する容器本体と、その開口部を被覆する蓋体とから構成されてなるものであり、例えば、医療の分野で使用される、ガーゼや脱脂綿といった医療補助品等を収容する容器においては、長年、金属製やガラス製の容器本体に、収容される物品の衛生面を考慮してある程度密封性が保持されるように蓋体に取り付けられたものが用いられている。

【0003】 ところが、このような金属製やガラス製の容器は、リターナブル容器であることから、ガーゼや脱脂綿といった医療補助品が不足したら逐次つぎ足し補充をするといった煩わしい作業が必要であり、その場合、例えば僅かな補充時間であっても該医療補助品を空気中に露出させることは衛生上望ましくないものであり、該補充行為の際に外部から菌等が混入する恐れが多分にある。また、同一容器への繰り返しつぎ足し使用は、微生物汚染の機会を増やし、容器内で菌が増殖することが知られて江いる。そのため、該容器自体も定期的に滅菌処理を施さなければならず、該処理が煩わしいとともに、十分な滅菌を施すことが困難なものであった。

【0004】 そこで、近年、金属製やガラス製の容器において前記医療補助品を補充する際の衛生面を考慮する

とともに、その補充の手間の煩わしさを省き、かつ、容器を含めた十分な滅菌処理を可能とするようにしたものとして、予め医療補助品等が充填され、容器ごと容易に十分な滅菌処理が施されるようにした合成樹脂製のディスポーザブル容器が提案されている。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、医療分野において用いられる容器は、内部に衛生面を重要視する前記医療補助品等を収納するものであるため、該容器に必要以上に手が触れることは衛生上避けなければならない。

【0006】 すなわち、医療補助品等が収容された容器の開蓋行為は主に医療行為中になされるが、該医療行為によっては知らず知らずのうちに望ましくない菌等が手に付着してしまうことがあり、知らないとは言えそのような手で容器の開蓋操作を行うと、容器自体は勿論のこと、内部に収容された医療補助品等までも該菌等によって汚染されてしまう恐れがある。

【0007】 しかも、従来の合成樹脂製のディスポーザブル容器は、蓋体はある程度密封性が保持されるように取り付けられているものであることから、開蓋する場合は、蓋体の前面部を持って手が容器の上方部を通過するように操作するものであるため、該行為中に手に付着していた菌等が医療補助品等が収容された容器内に振りまかれ混入する恐れが多分にあった。従って、上述のような蓋体の前面部を持って開蓋する行為は、衛生上望ましくないものである。また、蓋を開ける行為を両手で行うことは、片方の手に鑷子等を持っている場合に不便である。

【0008】 本願発明は、このような課題に対処しようとするものであり、ガーゼや脱脂綿といった医療補助品の補充の手間を省くようにして衛生面の保持をなすことは勿論のこと、開蓋操作をより衛生的に、かつ、容易に成し得るようにした合成樹脂製の容器を提供することを目的とする。

【0009】

【課題を解決するための手段】 本願発明は、開蓋操作をなし得るために手が触れる位置を限定するように操作部を設け、かつ、蓋体の開蓋状態を維持する係止機構の設置位置を限定することで、開蓋操作に支障無く、衛生的な該操作をなし得ることが出来るようにしたもの、詳しくは、開蓋操作において蓋体の前面部を持つことを選び、後端部で操作するようにすることで、開蓋時の動作を今までとは変更して不衛生な環境を作り出す恐れのある行為を回避し、また、該係止機構の位置も前面部を避けて設けることで、開蓋の際に容易に係止機構の係合が解除されるようにした容器とするものである。

【0010】 すなわち、本願発明は、容器本体と、該容器本体の上端開口縁部に揺動自在となる折り曲げヒンジ部を介して連設された蓋体と、該蓋体の後端部から外方

に突出するように連設された底状操作片とからなり、容器本体及び蓋体における前面部を避けて該蓋体が該容器本体の開口部を開塞するように維持する係止機構を設けることにより、該蓋体の後端部に連設された底状操作片を上方より押圧することで、該係止機構の係合を解除して開蓋するようにしたものである。

【0011】これにより、蓋体の後端部に連設された底状操作片を上方より押圧することで、蓋体の前面部を持って手が容器の上方部を通過するという不衛生な環境を作り出さなくとも容易に開蓋されることとなる。しかも、係止機構を、容器本体及び蓋体における前面部を避けてやや側面よりの前方部から背面部にかけての何れかにそれぞれ設けたことで、該底状操作片の押圧操作により蓋体が後方に引っ張らる状態となっても、図7に示すような係止機構が正面部に設けられた場合のように、該蓋体(3')に設けられた突起状の容器係合部(6')が容器本体(2')に設けられた窪み状の蓋体係合部(5')の奥に食い込んでしまい、該蓋体係合部(5')と該容器係合部(6')とからなる係止機構の係合が一段と強固となって、開蓋し辛くなってしまうということがなく、容易に解除されることとなる。

【0012】また、本願発明は、前記折り曲げヒンジ部における下面側の連設縁部に、指先が挿入され上面側の連設縁部を下方から押し上げが可能となる切欠部を形成してなるものでもある。

【0013】これにより、開蓋操作は、蓋体の後端部に連設した底状操作片に対して、例えば、親指による上方からの押圧と、人差し指による該切欠部を介しての下方からの押し上げとを併せて行うことが可能となり、一層容易に開蓋操作を成し得ることが出来ることとなる。

【0014】また、本願発明は、前記折り曲げヒンジ部における各端部に、蓋体の過度の開蓋を抑制する肉厚様の目止めを施してなるものでもある。なお、肉厚様の目止めとは、折り曲げヒンジ部を両側から挟んで端部をやや潰すように押圧したり、端部を前方にやや曲げるようにしたり、もしくは端部を僅かに接合したりすることで、該端部の肉厚が増したように処理することを言う。

【0015】これにより、該折り曲げヒンジ部における各端部を単に折り曲げるだけで解放状態とした場合のように、何回も開閉を繰り返した際に、開蓋した蓋体が反転し過ぎて容器の載置面に触れてしまうという不衛生状態が生じることを避けることが出来ることとなる。

【0016】また、本願発明は、容器本体と蓋体と底状操作片とを、合成樹脂により一体的に成形するように、望ましくは、合成樹脂シートを用いた真空成形により一体成形を行うようにしてなるものでもある。

【0017】これにより、容器本体と蓋体と底状操作片とを別々に成形して後から一体としなければならないとする煩わしい作業が必要なくなり、効率的かつ容易に製造することが出来るとともに、各連設部、特に容器本体

と蓋体とを連結した折り曲げヒンジ部の強度を高く維持することが出来ることとなる。

【0018】

【実施例】以下、本願発明の一実施例を図面に基づいて説明する。本願発明における容器(1)は、例えば、ポリプロピレンやポリエチレンテレフタレートのような合成樹脂製の薄圧シートを用いて一体的に真空成形するものであり、図1に示すように、容器本体(2)と、該容器本体(2)の上端開口縁部(2a)に揺動自在となる折り曲げヒンジ部を介して連設された該開口部を被覆する蓋体(3)と、該容器本体(2)と該蓋体(3)とを連結する折り曲げヒンジ部(7)とからなり、さらに、容器本体(2)及び蓋体(3)における前面部を避けて、該蓋体が該容器本体の開口部を開塞するように維持する係止機構(5, 6)を、後述するように設けるてなるものである。

【0019】容器本体(2)は、開口部縁(2a)から下方に段差を有し、後方背面部分から外方に向かって張り出た下面側の連設縁部(12)を有し、前記折り曲げヒンジ部(7)の一部を構成している。また、該下面側連設縁部(12)には、指先が挿入され上面側の連設縁部を下方から押し上げることが可能となるように、弧状の切り込みを設けることで半円状に切り欠かれた切欠部(8)が形成されている。さらに、該開口部縁(2a)における両側面部には、窪み状の蓋体係合部(5)がそれぞれ形成されている。

【0020】一方、蓋体(3)は、容器本体(2)の開口部に完全に被覆される大きさを有してなる逆凹状体であり、その外縁部(3a)の後方背面部分から該容器本体(2)の下面側連設縁部(12)と同様に外方に向かって張り出た上面側の連設縁部(13)を有し、該下面側連設縁部(12)とともに前記折り曲げヒンジ部

(7)の一部を構成している。また、該上面側連設縁部(13)には、更に外方に向かって張り出る底状操作片(4)が連続的に設けられ、蓋体(2)の後端部から外方に突出するように連設されている。さらに、前記容器本体(2)における蓋体係合部(5)と係合可能なように、蓋体(3)の外縁部(3a)における両側面部には、突起状の容器係合部(6)がそれぞれ形成されている。

【0021】また、折り曲げヒンジ部(7)は、一枚の合成樹脂シートから連設して形成された蓋体(3)側を容器本体(2)側へ折り返すことで、該蓋体(3)の自動的な跳ね上げによる開蓋状態を可能とする弾性蝶番状に構成されている。この際、該蓋体(3)の過度の開蓋を抑制するために、前記折り曲げヒンジ部(7)における各端部には、合成樹脂シートを折り返すことによる本来の連結部以外に、図5及び図6に示すような、該端部を僅かに溶接することで上面側連設縁部(13)と下面側連設縁部(12)とを連結する肉厚様の連結部が形

成されるように目止め(9)を施すようにすると良い。

【0022】従って、容器本体(2)の蓋体係合部(5)と蓋体(3)の容器係合部(6)とからなる係止機構は、該蓋体係合部(5)と該容器係合部(6)とが互いに係合することで、折り曲げヒンジ部(7)の弾性跳ね上げ力による蓋体(2)の無闇な開蓋が防止され、該容器本体(3)の開口部を開塞するように維持している。

【0023】この際、係止機構は、蓋体係合部や容器係合部を設ける位置や、突出する係合部(本実施例の場合は、容器係合部(6))の大きさによって、解除のし易さが変わってくるため、好適な係止状態を達成するためには両者の調整が適宜必要である。

【0024】このように構成した容器(1)は、図4に示すように、例えば、親指による上方からの底状操作片(4)の押圧(矢印A)だけでも十分に開蓋することが可能であるが、万一、前記押圧(矢印A)だけでは係止機構の解除がし辛い場合には、前記押圧(矢印A)と人差し指による切欠部(8)を介しての下方からの上面側連設縁部(13)の押し上げ(矢印B)とを併用させれば、容易に開蓋操作を成し得ることが可能となる。なお、該容器(1)の使用に際しては、特に図示しないが必要に応じて、該容器を保持する専用のスタンドを設けたり、該容器の底面外側に粘着テープを配置することにより、開蓋時の転倒を防止するようにしても良い。

【0025】

【発明の効果】以上のように本願発明によれば、蓋体の後端部において容器における蓋体の開閉操作を成し得るようにしたので、蓋体の前面部を持って手が容器の上方部を通過することによる容器本体内部への異物や菌等の混入といった恐れを生じる不衛生な環境を作り出さなくとも容易に開蓋することが出来ることとなる。

【0026】また、本願発明によれば、蓋体の後端部に底状操作片を設けたことで、容器の開蓋操作がし易くなることは勿論のこと、容器における蓋体の開閉操作の際に手指等が触れても良い部分とあまり好ましくない清潔部分とを明確に区分し、さらに、前記手指等が触れても良い部分を極めて限定的に少なくしたので、蓋体の開閉操作をより衛生的に、かつ、容易に成し得ることが出来ることとなる。

【0027】また、本願発明によれば、折り曲げヒンジ部における下面側の連設縁部に、指先が挿入され上面側の連設縁部を下方から押し上げが可能となる切欠部を形成したので、底状操作片の押圧による開蓋操作を補助して、一層容易に開蓋することが出来ることとなる。

【0028】また、本願発明によれば、折り曲げヒンジ

部における各端部に、蓋体の過度の開蓋を抑制する目止めを施したので、開蓋した蓋体が反転し過ぎて容器の載置面に触れてしまうという不衛生状態が生じることを避けることが出来ることとなる。

【0029】また、本願発明によれば、合成樹脂シートを用いた真空成形により容器の一体成形を行うようにしたので、効率的かつ容易に初めから一体的に容器を製造することが出来ることとなる。しかも、容器本体と蓋体と底状操作片とを後から接合するということがないので、容器本体と蓋体とを連結した折り曲げヒンジ部等の各連設部の強度を高く維持することが出来ることとなる。

【0030】さらに、本願発明によれば、従来より使用されている金属製やガラス製の容器の場合のように、ガーゼや脱脂綿といった医療補助品等を度々補充しなければならぬ煩わしい補充作業の必要性が無く、容器ごと滅菌処理を施すことで医療補助品等の清潔さが確実に保持された衛生上望ましい容器とすることも出来る。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本願発明の容器を示す開蓋状態の斜視図。

【図2】 本願発明の容器を示す開蓋状態の平面図。

【図3】 本願発明の容器を示す開蓋状態の平面図。

【図4】 【図1】示した本願発明の容器における開蓋操作を説明する(イ)開蓋状態を示す側面図、(ロ)開蓋状態を示す側面図。

【図5】 本願発明の容器における折り曲げヒンジ部端部の目止めを説明する折り曲げヒンジ部端部の部分拡大側面図。

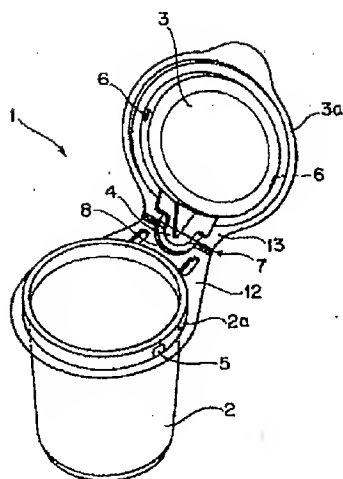
【図6】 本願発明の容器における折り曲げヒンジ部端部の目止めを説明する折り曲げヒンジ部端部の部分拡大平面断面図。

【図7】 従来の容器における容器本体と蓋体との係止機構を説明する部分拡大側面断面図。

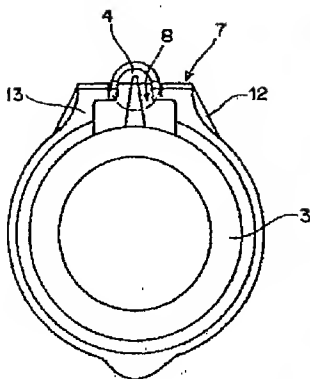
【符号の説明】

- 1・・・容器
- 2・・・容器本体
- 2a・・・容器本体開口縁部
- 3・・・蓋体
- 3a・・・蓋体外縁部
- 4・・・底状操作片
- 5・・・蓋体係合部
- 6・・・容器係合部
- 7・・・折り曲げヒンジ部
- 8・・・切欠部
- 9・・・目止め
- 12・・・下面側連設縁部
- 13・・・上面側連設縁部

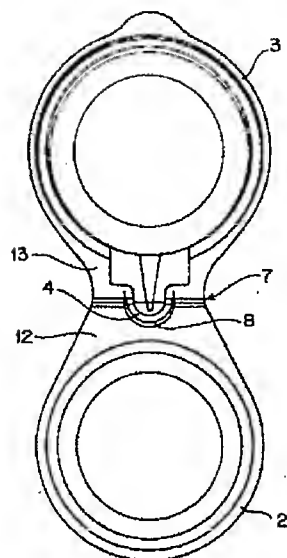
【図1】



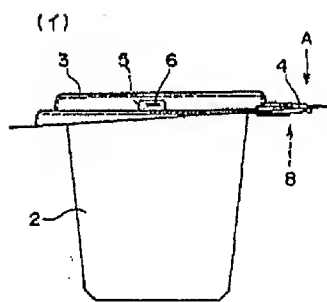
【図2】



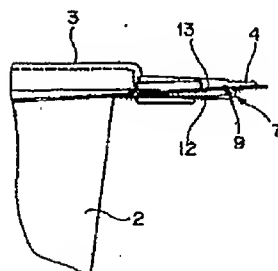
【図3】



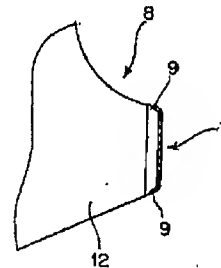
【図4】



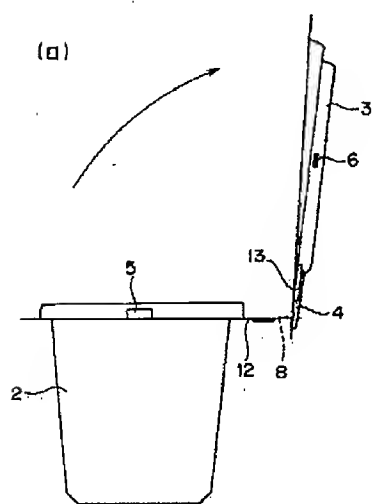
【図5】



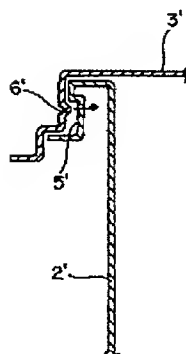
【図6】



(a)



【図7】



フロントページの続き

(72)発明者 谷口 久美子
東京都文京区湯島1丁目12番4号 株式会
社ホギメディカル内

(72)発明者 坂本 正宏
東京都文京区湯島1丁目12番4号 株式会
社ホギメディカル内

Fターム(参考) 3E084 AA06 AA12 AA24 AB10 BA01
CA01 CB04 CC03 DB13 DC03
FC09 GA06 GB06 LA18 LB02
LB07